

2017年度 関西学院幼稚園 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを活かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施しています。併設する学校の教員に、専門的な視点からの意見を聞くことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、関西学院幼稚園の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されましたので、公表いたします。

関西学院幼稚園は、126年の歴史の中で子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を貫いてきました。そこで、2017年度の学校評価におきましても「キリスト教主義教育」を評価項目に選定し、また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導」「保健管理」「教育環境整備」「保護者との連携」を設定しました。評価の実施に当たっては、各項目について保護者・教員にアンケート調査を行い、関西学院初等部校長、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員、関西学院評価情報分析室室長による保育実践・施設の参観、意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、保護者 87.3% (200人/229人中)、教諭 100.0% (20人/20人中) となっております。

今年度は、「教育理念・使命・目標」「評価項目」を説明し、各評価項目で「目標」を立て、「具体的な取組の状況とその効果に対する評価」を行い、「今後の方策」を示し、自己点検・評価としました。また、評価者の先生方に普段の保育を参観していただき、ありのままの本園の教育を知っていただき、その方々のご意見も合わせて関西学院幼稚園の学校評価としてまとめています。

関西学院幼稚園は学校評価を通じて、自らその課題を探り、その課題に向き合い、誠実に対応し、より質の高い保育をめざしていきます。

今後も一人ひとりの子どもたちが愛されていると感じられるキリスト教保育の研鑽に努め、保護者・学校関係者・地域の皆様と共に連携しながら、より良い幼児教育の実践を行いたいと考えております。今後どうぞよろしく願いいたします。

2018年3月9日
関西学院幼稚園
園長 赤木 敏之

学校評価

教育理念・使命・目標

建学の精神「幼子をキリストへ」

聖書の中にあるイエス・キリストによって示された教育観・子ども観（一人ひとりの子どもたちは神様に愛されている存在）をもって、子どもたちを慈しみ育てることを使命としている。キリスト教主義の教育理念、および子どもを中心に据えた保育は、126年間、一貫した流れの中で今に受け継がれている。

教育方針

- 子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって示された神様の愛に気づき、自らがかけがえのない存在であることを知り、喜びと感謝をもって過ごす。
- お互いの個性や多様性を認め合い、自主性、創造性を発揮して共に育ちあう。
- 神様の創造された自然の中で心と体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培う。

これらに基づいて、教員は神、イエス・キリストとの交わりによって支えられ、意図的、継続的、反省的な努力、配慮をもって子どもたちと共に学び、成長する存在でありたいと願って保育を行う。また、遊びを中心とした保育を実践し、子どもたちの心の育ちを支え導く。

2017年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育→子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を貫いてきており、幼稚園の教育の根幹をなすため、評価項目に選定している。
- ・教育課程・指導→重要項目であり、経年変化をはかるため、毎年の評価項目としている。
- ・保健管理→経年変化をはかるため、継続した評価項目としている。
- ・教育環境整備→子どもが遊び学ぶ場としての園庭、保育室の環境を整備する事は重要であるため、この項目を選定している。
- ・保護者との連携→子どもの健やかな育ちのために保護者との連携は不可欠であるため評価項目に選定している。

2017年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教の根幹である愛情を感じられる教育の実践】	自己評価	A
目標	○教職員間でキリスト教保育の理念の共通理解に努める。 ○一人ひとりの園児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	○キリスト教保育の理念の共有 ・ 幼稚園は、神様から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。教員も日々、子どもたちが愛されていると感じられる保育の実践に努めている。 ・ 教員は子どものあるがままを受け止め、愛情をもって関わっている。 ・ 教員は子どもの視点に立って物事を考えている。子どもを通して保育のあり方を話し合っている。 ・ 教員は日々の保育の中で、子ども同士が互いに個性や発達の多様性を理解し、認め合うことができるように働きかけている。 ・ 教員は、子どもが喜びを持って活動に取り組めるように導き、支え、時には見守		

	<p>り、待つことも大切にしている。その過程を通して主体的に遊び、充実感や達成感を味わえるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員は「～ができる」「～ができない」といった結果にとらわれず、過程を大切にし、子どもの心の動きに目を注ぎ寄り添っている。 ・ 土曜礼拝（年間：年長組・年中組 17 回、年少組 16 回）では、聖書の話などを聴き、献金を捧げ、祈りの時をもっている。また、平日に年長組が 3 クラス合同で年間 16 回、年中組は各クラスで年間 17 回、年少組は各クラスで年間 11 回、聖書の話などを聴く礼拝を行っている。 ・ 日頃の保育中の礼拝では、感謝や人を思っているの祈り（自然、友だち、家族、災害のこと）や、神様との対話を大切にしている。また、入園式、進級式、夕涼み会、クラス懇談会、運動会などの行事においても、会のはじめに礼拝を行っている。 ・ 毎朝、教員間で祈祷会を行い、保育に臨んでいる。また、毎週月曜日の朝は、関西学院院長に来園いただき、共に祈りの時をもっている。 ・ 保護者に対しては、新入園児保護者会、保護者会総会でキリスト教保育について理解を深めてもらっている。また、クリスマス前には「クリスマス準備保護者会」にて礼拝・講演会を行い、その上でクリスマスには保護者も共にページェントによる礼拝に参加してもらっている。その他、母の日、花の日礼拝、収穫感謝礼拝、震災を覚えての礼拝など、園通信にてその由来や大切にしていることなどを伝えている。 <p>保護者アンケートからは、質問 1「幼稚園はキリスト教保育の考え方を、保護者の方と共有している。（礼拝、保護者会、手紙、話等で）」に関しては、74.5%（前年比 3.6%減）が、強くそう思うと答えている。一方、あまりそう思わないと答えている保護者は 0.5%（前年比 1.6%減）となっている。また、質問 2「幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている。」の項目では、77.0%（前年比 0.4%増）が強くそう思うと答えており、あまりそう思わないと答えた保護者は、2.0%（前年比 0.6%減）となった。これは、幼稚園の上記の実践が保護者の理解に繋がっていると推測される。</p> <p>教員アンケートからは、質問 1、2 共に、肯定的な回答を得ている。しかし、質問 1「教員は、キリスト教保育の理念を共有している。」に関しては強くそう思うと答えているのが 65.0%（前年比 8.7%減）、質問 2「幼稚園は、園児一人ひとりの発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている。」に関しては 75.0%（前年比 14.5%減）となった。この結果から、園内での教員間の話し合いの場は設けられているが、さらに長期的な取組が必要であると考えられる。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>教員はそれぞれにキリスト教保育の理念を持っているが、形無く、目には見えにくいものであるが故に、理念の共有が難しい面がある。しかしこれは幼稚園の教育の根幹となる部分である。教員間での日常的な話し合いの場を設け、それを継続するよう努める。加えて講師を招聘し、園内研修を計画する。これらの過程を通して、保護者には引き続き、キリスト教保育を理解して頂けるように働きかける。</p>

評価項目 【テーマ】	教育課程・指導 【各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助】	自己評価	A
目標	○園児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する。 ○環境（人的・物的）を通しての保育を実践する。		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間指導計画を基に月案、週案、日案を作成している。日案は、日々の子どもの姿を省察し作成。また、週案では1週間の保育を振り返り、一人ひとりの姿を記録し、翌週の活動計画を立てている。 ・ 教員は、教育的配慮を持って自由活動における物的環境を構成し、人的環境として、子ども一人ひとりが意欲的・自主的に、また、喜びを持って共に活動に取り組めるようにしている。 ・ 緑豊かで起伏もあり、四季折々の植物や昆虫等に触れられる園庭となっている。その中で子どもたちが五感を使っていろいろな体験ができるように援助している。園庭環境の維持・管理のために、教員は樹木の剪定、水遣り、植物の植え替え、池の掃除や水量調節等を適宜行っている。 ・ 教員は、月に一度の園内研修に加えて、兵庫県私立幼稚園協会やキリスト教保育連盟、西宮市人権・同和教育研究集会就学前教育部会主催の研修会に参加している。また、教員自身の研究テーマに沿った研修会や学会等に参加している。 <p>保護者アンケートから、質問3「幼稚園は、子どもたちの気持ちを大切にし、主体性を育む保育をしている。」に関して、強くそう思うが、79.0%（前年比0.2%減）となっている。また、質問4「幼稚園は、子どもたちの年齢に応じた保育プログラムを実践し、個々に添った援助を行っている。」に関しては、強くそう思うが68.0%（前年比0.2%減）となり、子どもの主体性を育む保育への評価が現れていると思われる。一方、教員アンケートでは、質問3「幼稚園は、園児一人ひとりの興味・関心を高め、自主的・意欲的に活動できるように保育をしている。」に、に関して、強くそう思うが65.0%（前年比8.7%減）となり、質問4「幼稚園は、子どもたちの育ちに応じた保育プログラムを実践し、個々に添った援助を行っている。」は、強くそう思うが75.0%（前年比9.2%減）となった。これは、教育課程の共通理解の弱さが数値に表れていると思われる。</p>		
今後の方策	年間の子どもの育ちを見通し、指導計画を立てる。その中で、教育課程の共通理解を教員間で深める。また、個々の教員の考え方にさらに耳を傾け、共有しながら、日々の実践に対する反省、改善に努める。そして、保育の質・専門性を高めるために、次年度も研修会、研究会、学会への参加を積極的に行う。		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【日常の健康管理、疾病予防の取組】	自己評価	B
目標	○園児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防に努める。 ○保育者の対応できない怪我、疾病等について園医に相談して最善の対応をする。		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児生活調査票（毎年度保護者が記述）にて、子ども一人ひとりの健康状態、持病、身体的特徴、既往歴などを把握している。 ・ 必要に応じて、保護者に直接子どもの健康状態を聞いている。 ・ 怪我、流感、伝染病等（地域の流行を含む）に関しては、全教職員で共有している。 ・ 園児の健康状態については、教員が登園時に視診をおこない、保護者からも随時話を聞いている。 ・ 保育中は体調の変化に目を配り、検温・保護者に連絡等を行っている。また、園児の状態に応じて保健館と連携し、指示を仰いでいる。降園時、帰宅後も保 		

	<p>護者と連絡をとっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 流行性の疾病などで欠席者増加の兆候が見られた際、園医に相談し、指示を仰いでいる。 ・ 園医による救急法講習（AED、CPR、エピペン使用法）を受講。 ・ アレルギーショック症状の緊急対処法の指導を受けている。また、アレルギー対応者には、園から出るおやつ・食事に関して、原材料表を配付し、必要に応じて代替、除去等の対応を行っている。 <p>以上のような取組を行っているが、保護者アンケートでは、質問5「幼稚園は、子どもたち一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育している。」に関して、56.5%（前年比6.0%増）が強くそう思うと答え、教員アンケートでは、質問5「幼稚園は、園児一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育している。」に関して70.0%（前年比22.6%増）が強くそう思うと答えている。健康状態の把握に関しては、保護者、教員共に、前年に比べて評価が上がった。しかしながら、保護者アンケート質問6「幼稚園は、子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。（園医と連携の上）」は、強くそう思うが39.5%（前年比3.0%増）となり、教員アンケートの質問6「また、その対応については園医に相談の上、行っている。」は、強くそう思うが75.0%（前年比9.2%減）となった。この結果から、幼稚園からの発信、働きかけが十分でないことがうかがえる。また、保護者の健康管理の判断基準が様々であることも影響していると思われる。</p>
今後の方策	<p>子どもの疾病や、健康管理に関する手紙を保健だよりとして定期的に発行する。また、登園するにあたり、子どもの健康状態の目安となるものを提示する。これらを、園医と相談の上、保護者に啓発する。</p>

評価項目 【テーマ】	教育環境整備 【設備整備、遊具・教材の充実】	自己評価	B
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 法人と連携した施設整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行う。 ○ 法人と連携して子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う。 ○ 保育者の教育、研究のための環境の充実を行う。 		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 設備整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭の一部の土壌改良のため、土を掘り起こし、バーク堆肥を混ぜ、植物環境の充実を図っている。 ・ 園庭権所の点検、清掃を適宜教員で行っている。 ・ 砂場（2箇所）の砂の補充を行った。 ・ 年度当初、教員で小屋・雲梯などの遊具に柿渋（天然防腐剤）を塗り、園庭の築山部分に真砂土を補充した。 ・ 毎日、登園前に教員が安全確認（施設設備、遊具等の点検など）を行い、保育後、教員で保育室、デッキ、園庭等の清掃をしている。随時、総務・施設管理課、聖和キャンパス事務室と連絡をとり、修繕を行っている。 ・ 園庭のクスノキ下のセーフティーマットを経年劣化に伴い新調した。 ○ 遊具・教材の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具が壊れ使用不可になった際、遊具を買い替え、教材が不足した場合は随時補充している。 ・ 子どもの遊び・発達を考え、マグフォーマー（磁石で立体構成ができる遊具）、アニマル人形、ブロック、パズル、ボードゲームなどを新たに購入した。 ・ 経年劣化した大型積み木を、一部新調した。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年ごとに教員が検討し、212冊の絵本を購入した。 ・ 長年使用していたクリスマスページェントの衣装を保護者の協力の下、一部作成した。 <p>○ 保育者の教育・研究環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に一度、教員全員で園内研修ができるように、日程を改善した。 <p>保護者アンケートからは質問8「幼稚園は、子どもの興味や関心・育ちに応じて遊具、教材を整えている。」に関しては、78.0%（前年比 5.1%増）の保護者が強くそう思うと肯定的な回答をしており、概ね保護者は満足していると思われる。しかし、質問7「幼稚園は、補修・修繕等を含めた教育環境設備の点検・整備を適切に行っている。」に関しては、64.5%（前年比 0.1%減）が強くそう思うと回答した。これは、修繕に時間がかかる際、幼稚園から保護者への伝達が十分ではなかったことが推測される。</p> <p>教員アンケートからは、質問9「幼稚園は、保育者の教育・研究のための環境（学会、研修会への参加を含む）づくりに努めている。」に関しては、強くそう思うが65.0%（前年比 38.7%増）となった。これは、研修会に参加しやすい体制が前年度より構築されつつあるからではないかと思われる。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>○設備整備</p> <p>今後も法人との連携を円滑に行い、施設整備の安全、維持管理、点検、拡充を行う。また、保護者にも修繕の状況を理解してもらえるように、情報を発信・伝達する。</p> <p>○ 遊具・教材の充実</p> <p>今後も、教員の遊具・教材研究を継続し、園児の発達に応じた遊具・教材を全教員で検討し、さらなる充実を図る。</p> <p>○保育者の教育・研究環境の充実</p> <p>引き続き、教員の研修会への参加、個人研究への取組が十分にできるように、研修計画に基づいて、預かり保育の日程を調節する。</p>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>保護者との連携 【保護者との連携】</p>	<p>自己評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>	<p>○園の教育方針について理解を深め、園児の心身の健全な発達を願い、家庭との連携を図る。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登降園時、保護者が子どもを送迎するので、教員と保護者が顔を合わすことができる。その際、家庭での様子を聞いたり、園での子どもの様子を伝えたりしている。時には、園生活を送る上での悩み、子育て相談などを受け、共に話し合っている。 ・ 家庭訪問（毎年度当初）、クラス懇談会（1学期）、個人懇談会（2学期、3学期）を行い、園児一人ひとりについて話し合い、方向性（願う育ち、援助方法など）を互いに模索している。 ・ 学期ごとに保育参観日を設け、子どもの日頃の姿を見てもらっている。保護者会総会では、園生活のビデオを通して園長が園の教育方針について話をした。また、外部から講師を招き、子育て・教育の鍵となる事柄をテーマに保護者会講演会を行った。 ・ 日々の保育については担任がクラスの出来事や子どもの姿を伝えている。また、Facebook、ようちえんネット（ネットワークツール）にて、園生活の様子や伝達事項などを発信している。 		

	<ul style="list-style-type: none"> 園児の心身の健全な発達を願い、園と家庭との連携、保護者同士の親睦を目的とし、保護者会活動が行われている（木のパズル、コーラス、音楽、図書、手芸サークル等）。それぞれのサークルが、園児に還元できる活動を行っている。今年度は、手芸サークル他有志が、クリスマスページェント衣装の作成に携わった。また、図書サークルでは破損した絵本の修理を行っている。 <p>保護者のアンケート結果からは、質問9「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。」に関して、強くそう思うが61.5%（前年比変動なし）、あまりそう思わないが4.5%（前年比0.3%増）、全くそう思わないが0.5%（前年比変動なし）となった。また、教員アンケートからは、質問10「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもたちの育ちを支えている。」に関して、強くそう思うが、80.0%（前年比6.3%増）、どちらかといえばそう思うが、20.0%（前年比6.3%減）となった。教員アンケートの数値の高さからは保護者との連携をとれていると認識しているが、保護者アンケートの結果では、そうではないことがうかがえる。</p> <p>保護者アンケート質問10「幼稚園は、子どもたちの心身の健全な発達を願い、保護者と連携を図っている。（保護者会、講演会、行事等）」に関しては、強くそう思うが64.8%（前年比1.3%増）、教員アンケートの質問11「幼稚園は、子どもたちの心身の健全な発達を願い、保護者と連携を図っている。（保護者会、講演会、行事等）」に関しては、強くそう思うと答えたのが85.0%（前年比11.3%増）となり、これらの結果においても保護者と教員の意識の差異が見受けられる。</p>
<p>今後の方策</p>	<p>保護者との連携は、子どもの育ちに関して、非常に重要である。しかし、教員個々の努力が、保護者アンケートの結果には反映されていない現状を踏まえ、保護者のニーズに寄り添った連携の取り方を模索していく。</p>

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

<p>保護者アンケート質問11「お子様は、幼稚園で過ごすことを楽しいと感じている。」に関して、強くそう思うと答えた保護者が82.0%（前年比1.8%増）となり、質問12「幼稚園の教育・保育に満足している。」に強くそう思うと答えたのが、77.5%（前年比3.0%増）となった。どちらも肯定的な回答を得たが、保健管理、教育環境整備、保護者との連携の項目においては、課題が示された。今後、長期的な見通しをもって、改善していく。</p> <p>子どもたち一人ひとりが日々喜びをもって園生活を送り、その子どもの姿を通して、保護者もより信頼を寄せる幼稚園であるように、教員全員で改善点を共有、熟考し、日々の保育に生かしていく。</p>

2017年度の評価をふまえて2018年度に予定している評価項目、テーマ等

- ・キリスト教主義教育→子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を貫いてきており、幼稚園教育の根幹をなすため、評価項目に選定する。
- ・教育課程・指導→重要項目であり、経年変化をはかるため、評価項目とする。
- ・保健管理→経年変化をはかるため、継続した評価項目とする。
- ・教育環境整備→子どもが遊び学ぶ場としての園庭、保育室の環境を整備する事は重要であるため、評価項目とする。
- ・保護者との連携→子どもの健やかな育ちのために保護者との連携は不可欠であるため評価項目に選定する。

第三者評価／学校関係者評価

- ・豊かな保育環境の中で、子どもたちが主体性を発揮し、生き生きと活動していることが保育参観を通して実感できます。キリスト教保育の理念に基づいた関西学院幼稚園の充実した保育内容、方法が日々の実践に具現化していることが今回のアンケート結果からもみてとれます。
- ・昨年度の学校評価をふまえて、今年度の重点項目として予定されていた「保健管理」については、幼稚園の自己評価が「B」にとどまりました。昨年度の結果をふまえて、今年度、どのような具体的方策がなされ、どのような具体的課題が見出されたのか整理し、次年度につなげていくことを期待します。
- ・「保護者との連携」については、登降園時の保護者と教員の交流など、日々丁寧な情報共有が実践されています。多様化する保育ニーズのなかで、関西学院幼稚園の伝統として大切に守られてきたこのような一つひとつの場面が、保護者との連携につながっています。保護者への理解がさらに深まることが望まれます。
- ・教員アンケートの質問9「幼稚園は、保育者の教育・研究の為の環境（学会、研修会への参加も含む）づくりに努めている」という項目は、教員の研修・資質向上の取組として評価できます。質問12「教員は幼稚園に勤めている事に誇りを持っている」について、80.0%の教員が「強くそう思う」と回答していることから、幼稚園への帰属意識は高く、そのことが質の高い保育の原動力になっていると思います。教員の資質向上への取組がさらに充実することを期待します。
- ・今年度の目標である「教職員間でのキリスト教保育の理念の共有」については、保護者の質問1「幼稚園はキリスト教保育の考え方を、保護者と共有している（礼拝、保護者会、手紙、話等で）」の結果では、肯定的な意見であることから、教員として尽力した姿がみられます。昨年末のクリスマスページェント、今年の保育参観をした中で、自由活動において主体的にかつ意欲をもって行動する子どもたちの姿が多々見られました。このような背景に、キリスト教保育の考え方に基づいた保育であることを感じました。
- ・2つ目の目標「一人ひとりの園児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする」については、全員の教員が概ね達成したと回答していることは、日々の努力があると評価できます。一方、わずかながら保護者の中に「あまりそう思わない」という意見があります。「今後の方策」の記述にもありますように、教育課程の共通理解と同時に、教員の考え方の共有や園内研修を通して改善していくことが期待されます。しかし、保護者アンケート質問11「お子様は、幼稚園で過ごすことを楽しいと感じている。」に関して、強くそう思うと答えた保護者が82.0%と高い評価であることから、一人ひとりの子どもたちが愛されていることを実感しているのではないかと考えます。

【教育課程・指導】

- ・教師が子ども一人ひとりの思いに丁寧にかかわる姿勢がみられ、教育課程も充実しています。
- ・自由活動では、園庭の木を観察する教員の姿に気付いた子どもたちが教員と共に葉の様子を見て回ったり、教員の砂運びを手伝おうと自発的に動いたりする子どもの姿がみられました。教員のさり

げない行動が子どもたちにもたらす環境刺激となることを感じました。さらに、昔ながらの羽子板による「羽付き」など現在失われつつある遊びが体现でき、物的環境も優れていると考えます。

【保健管理】

- ・保護者アンケート質問6「幼稚園は、子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。(園医と連携の上)」では、若干、「どちらかといえばそう思う」という意見に対して、保護者に引き続き情報を伝達されることが望まれます。

【教育環境整備】

- ・自己評価がBとなっていますが、日々の登園前の設備・遊具点検、園庭の清掃などを実践されていることは、評価できます。また、保育室の清潔さがよく保たれていました。保育室の壁面には次の活動を予測する凧が芸術的に飾られ、さらに、子どもたちは教員のギターに導かれて丁寧な声で歌うなど、保育室の視覚的・聴覚的な環境が整っていると感じました。

【保護者との連携】

- ・保護者と教員の連携について、アンケート結果に数字上の認識に差があることが課題となっていますが、Facebook やようちえんネットの活用等の継続により、今後、保護者の反応としてあらわれることが期待されます。
- ・教員アンケート質問9「幼稚園は、保育者の教育・研究の為の環境(学会、研修会への参加も含む)づくりに努めている」の結果から、研修会に参加しやすい制度が定着し、改善が進んでいることがわかります。

【キリスト教主義教育】

- ・子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくという考えのもと、子どもの個性を理解し、子どもたちが主体的に遊び、充実感を味わえるよう保育を工夫することで、自分や人の大切さを子どもたちが実感できる取組が行われています。
- ・誰に対しても親しみを持って、仲良く、優しく接する子どもたちの姿から、キリスト教主義教育の成果がうかがえます。

【教育課程・指導】

- ・日々の子どもの姿をもとにした、きめ細かな教育課程が編成されています。
- ・自然豊かな園庭の環境を十分に活用し、子どもたちが日々、五感を通じて豊かな体験活動ができるよう工夫がなされています。
- ・一人ひとりの子どもの実態に配慮された物的、人的環境の設定が工夫されていることがわかりました。

【保健管理】

- ・子どもの健康状態について全教職員が共有するよう努めています。
- ・毎朝登園時に保護者と園児の健康状態その他様々な話ができることが保健管理上非常に有効であり、登園後も、保護者と連絡を密に行うよう努めています。
- ・アレルギーについての対応や緊急時の対処法についても研修を行うと同時に体制を整えています。
- ・今後さらに「えんだより」「ほけんだより」等を活用することで保護者との連携を強めることができるものと考えます。

【教育環境整備】

- ・施設、設備については日々教員が点検を行い、随時修理等が行われるように努めています。また、絵本等の教材の充実にも努めています。

- ・教員は種々の研修に参加し、自身の力量を高めるよう努めています。
- ・預かり保育のニーズが高まる中、調整を図りながら教員研修の充実を行っています。

【保護者との連携】

- ・登降園時、家庭訪問、保育参観等の機会を通じて、保護者との連携を深めるよう努めています。また、気軽に子育て相談なども出来る関係が構築されています。
- ・「Facebook」や「ようちえんネット」を活用して、日々の出来事などを伝えたり、緊急時の連絡を行ったりしています。
- ・PTA活動とは別に、自主的な保護者のサークル活動が行われており、保護者同士の関係が深まるとともに、保護者が園に足を運ぶ機会が増えることで幼稚園理解、子ども理解につながっていると考えます。

豊かな自然の中で伸び伸びと活動する幼児の姿と、それを優しく見守りながら適切に指導を行う教員の姿から、幼稚園が推進しているキリスト教主義に基づく温かい保育を見ることができました。

キリスト教主義教育については、様々な形で努力しておられ、保護者の評価も高いと考えられ、評価できますが、教員の「強くそう思う」の割合が減少している点について継続してなぜそのような結果になったかを調べていただき、教員の理解を高めていただくことが期待されます。

保護者アンケートの教育課程・指導に関する「強くそう思う」の割合が減少している点について継続してなぜそのような結果になったかを調べていただき、教員の理解を高めていただくことが期待されます。

保健管理で、「健康状態を把握しての保育」の評価が高くなってきていることは評価できます。

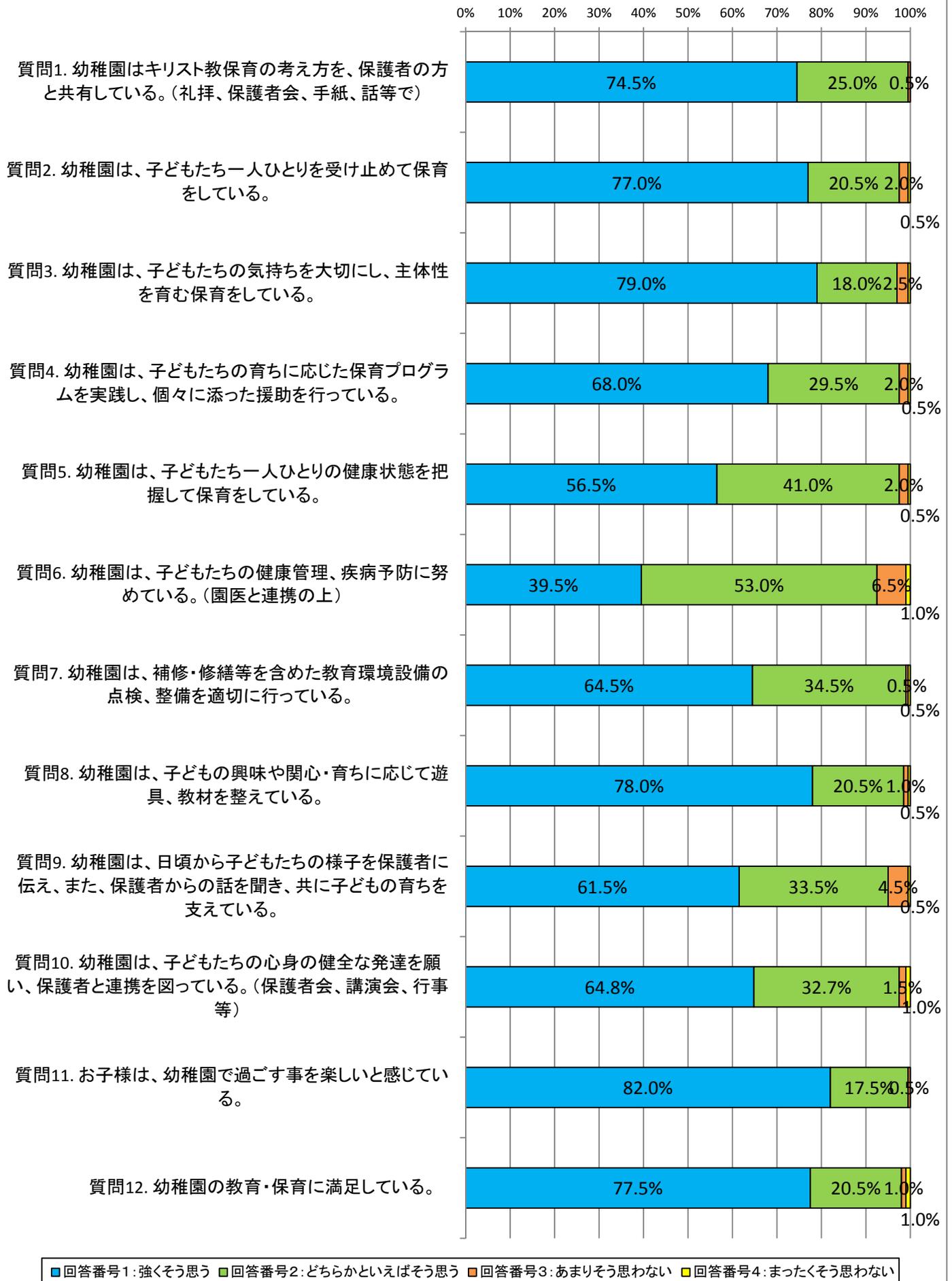
教育環境整備について、教員の「保育者の教育・研究のための環境」に関する高い評価が大幅に高くなってきていることは評価できます。

保護者との連携について、保護者と教員の意識の差について、なぜそのような結果になったかを調べていただき、その差を縮小する努力をしていただくことが期待されます。

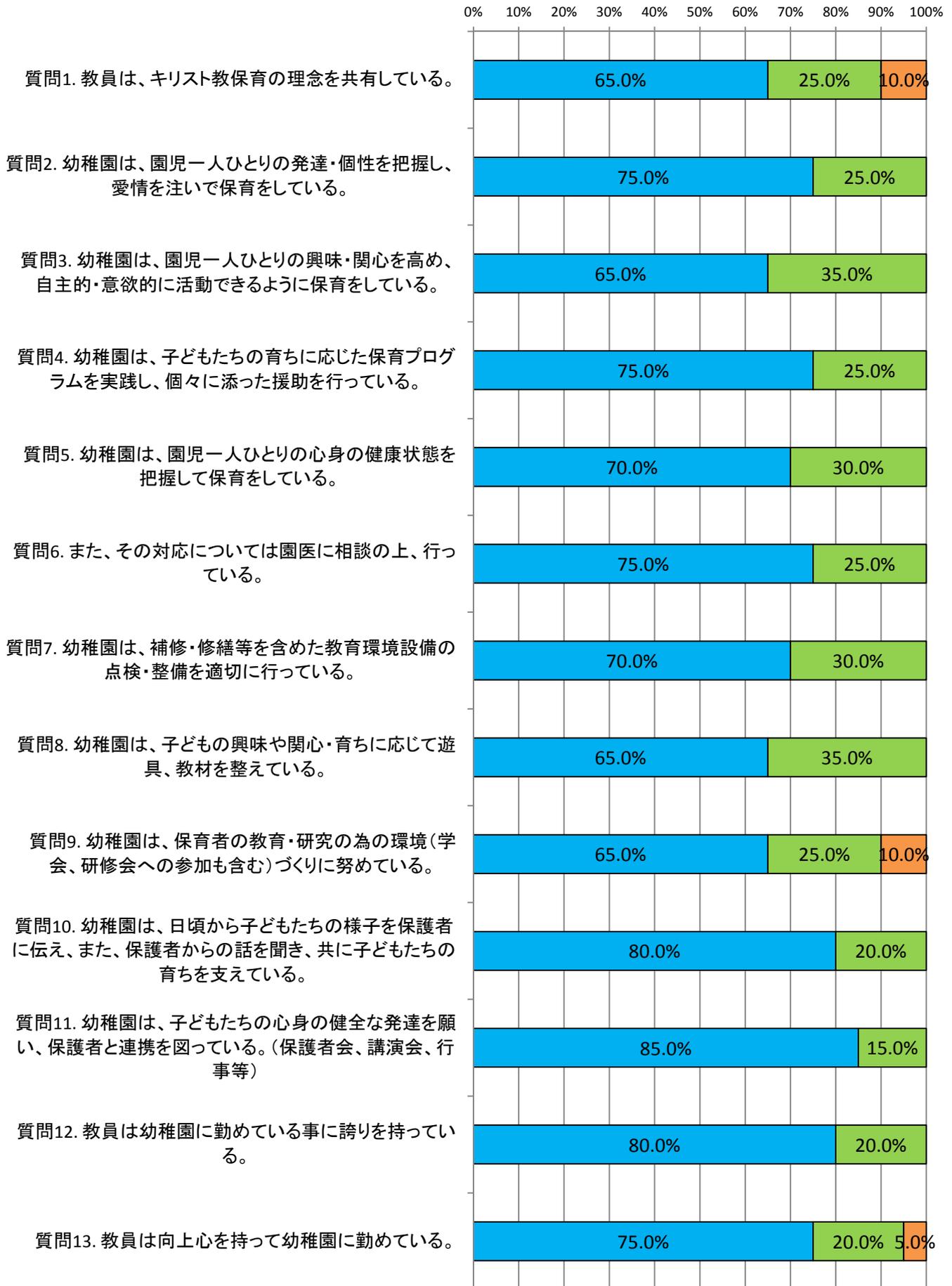
見学の時に、先生が園児の注意を惹き、園児も楽しく保育を受けている点に感心しました。

2017 年度学校評価

2017年度 学校評価アンケート集計結果
 幼稚園・保護者（回収率 87.3% 200人/229人中）



2017年度 学校評価アンケート集計結果
 幼稚園・教員（回収率 100% 20人/20人中）



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない